

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	酒井 克也
審 査 委 員		主 査 氏 名	新 竜 郎
		副 査 氏 名	丸 山 圭 司
		副 査 氏 名	丸 山 浩 樹
<p>[論文題名]</p> <p>Human liver-expressed antimicrobial peptide 2 elevation in the cerebrospinal fluid in bacterial meningitis. 細菌性髄膜炎における脳脊髄液中 Liver-expressed antimicrobial peptide-2 の上昇</p> <p>[要 旨]</p> <p>本研究は、2003年に2つのジスルフィド結合を含む40個のアミノ酸からなる塩基性ペプチドとして、ヒト血液から単離された Liver-expressed antimicrobial peptide 2 (LEAP2) に着目し、神経疾患患者由来の脳脊髄液中の濃度をELISAによって測定し、その病理学的あるいは診断的意義について検証した。対象症例は細菌性髄膜炎5例、無菌性髄膜炎9例（ウイルス性髄膜炎5例、クリプトコッカス髄膜炎4例）、免疫介在性末梢神経障害10例（慢性炎症性脱髄性多発神経炎5例、ギラン・バレー症候群5例）、免疫介在性中枢神経障害（多発性硬化症）5例、脳脊髄液一般所見が正常な菌血症患者1例、対照として併存疾患のない解離性障害5例の合計35例であった。その結果、細菌性髄膜炎群の脳脊髄液 LEAP2 濃度は、他の4群よりも有意に高いことが判明した。また、5群すべての患者の脳脊髄液中 LEAP2 濃度は、炎症の程度と関連する脳脊髄液タンパク質濃度、細胞数、血清CRP濃度と正の相関を示していた。これらの結果から、脳脊髄液 LEAP2 濃度の上昇は、中枢神経系への細菌感染による急性期炎症状態を反映したものと考えられ、細菌性髄膜炎の補助的診断に有用である可能性が示された。</p> <p>以上から、審査委員は、脳脊髄液 LEAP2 濃度の細菌性髄膜炎における有意な上昇を明らかにした本論文は、学位論文に値すると判断した。</p>			

## 最終試験結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	酒井 克也
審 査 委 員		主 査 氏 名	新 菟 一 郎
		副 査 氏 名	丸 山 圭 司
		副 査 氏 名	丸 山 圭 司
[要 旨] 申請論文の内容及び関連領域について口頭で試問した結果、学位を授与するに値する学力を有するものと認定した。			